中国名山選

まえがき

― 中国名山・名峰をより良く知るために ―

人々の心をとらえて離さない中国の名山・名峰、その人気は古く、その昔、太古時代から「三山五岳」が言われ、近現代は急峻な山々が峰を連ねるヒマラヤ山脈ー「世界の屋根」が言われる。明代の旅行家で地理学者の徐霞客は、黄山を訪れた際、その山容は秀逸で、素晴らしい景色を前に「天下に名峰ありといえども、黄山には及ばず」こう感嘆したという。中国の名山・名峰は「唯一性、壮美さ、独特性」などを兼ね揃えており、現実・史学・伝説どれを取って見てもすばらしい。

本書『中国名山選』に選ばれた名山・名峰は、「標高世界一の山、史上最も著名な山、佛教・道教に大きいな影響を与える山、山容秀逸な山、未踏峰の山」など多数に上る。また、本書の特色は、精選した山々であること、分かりやすいこと、写真と登山略図を多く載せること、この3つに重点を置いている。

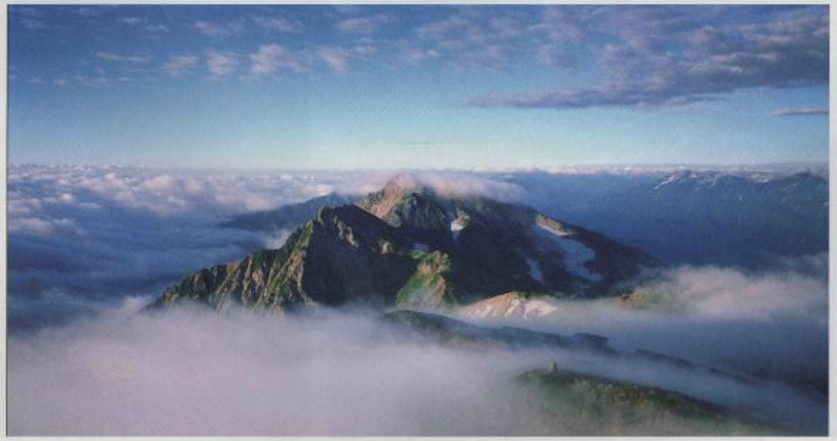
現在、中国各地には1000座以上名山・名峰が存在している。本書では、その山々から「最も著名で、最も優れたのもの」を選んで紹介し、編纂者の発案と責任において、山の地誌・歴史、佛・道教史、文化史、文学史、山容、などの特徴を中心として厳しく選別し、かつ「品格・歴史・個性」を選択の基準としている。また、本書は紹介文を分かりやすくするため、簡潔で平易な表現を多く用いている。

最後に、本書は中国の名山入門書のひとつであり、この本を通じて今まで知らなかった中国の名山・名峰の魅力を知ってもらいたい。読んでいただければ解説はいらないはず。どうぞお楽しみのほどを。

目　　次

まえがき …… 表紙2

黄山 …… 02
泰山 …… 04
衡山 …… 06
嵩山 …… 08
華山 …… 10
恒山 …… 12
廬山 …… 14
中国丹霞山 …… 16
中国南方カルスト …… 20
珠穆朗瑪峰 …… 24
四姑娘山 …… 26
梅里雪山 …… 28
武夷山 …… 30
武陵源 …… 32
三清山 …… 34
五台山 …… 36
峨眉山 …… 38
普陀山 …… 40
九華山 …… 42
武当山 …… 44
青城山 …… 46
斉雲山 …… 48



黄 山 （コウザン）

（1990年に世界遺産に登録されている）

黄山は1990年世界自然遺産に登録され、中国の安徽省に位置する。72峰から成る山脈で、独特の地形と古来より山水画の題材として中国美術を育んできた。そのうち天都峰、蓮花峰、光明頂は黄山の三大主峰で、全て標高1800m以上であり、「天下一の奇」とも言われている。

黄山は、自然景観を特色とする山岳観光地であり、奇松、奇石、雲海、温泉は黄山の「四つの絶景」と称される。四つの絶景のうちでも最大の景観は、「雲海」で、天上に出現した雲の大海に点々と小島のように岩山が浮かぶ。さらに、谷間をゆっくりと雲が流れるミステリアスな光景は、多くの山水画のモチーフになった。黄山は、自ら山に登ってこそ、最も美しい景色を楽しめることができると言われている。

山麓には温泉もあり、宿泊施設もできている。

泰山（タイザン）

（1987年に世界遺産に登録されている）

泰山（別名：岱山）は五岳の一つ、東岳である。

山東省泰安市の北に位置し、面積は426km²で、主峰の玉皇頂は標高1545mである。

泰山は道教の聖地でもあり、封禅の儀が行われ、始皇帝も中国統一の功績を天帝に報告した。その後、漢の武帝、唐の太宗、宋の太祖から明清時代まで中国各時代の王や皇帝が山に登って天に祈祷したり、多くの文人墨客が訪れており、多くの大切な文化遺産が残っている。

山中には、古代の建築物群は20ヶ所、石刻が2200ヶ所あり、主に孔子登高処、経石峪、中天門、竜潭ダム、中天門、五大夫松、十八盤、南天門、碧霞祠、日観峰、月観峰、竜潭飛瀑などの名所旧跡のほか、多数の祠や廟、宮殿建築が点在している。また、日の出、夕日、泰山佛の光、雲海は泰山の「四大奇観」と呼ばれ、世界でも有名である。

岱廟は1009年の創建で、何度も火災で焼失し、現在のものは1668年に再建されたものである。間口49m 奥行き18m、高さ22mの大建築で、北京故宮の太和殿、曲阜孔廟の大成殿と並ぶ、中国三大木造建築の一つである。1987年に世界遺産に登録されている。歴代の皇帝は泰山に登る際には必ず岱廟で参拝していた。

「五岳」とは？

五岳（ごがく）は中国５つの山の総称。五名山とも呼ばれる。

陰陽五行説に基づき、木行=東、火行=南、土行=中、金行=西、水行=北の各方位に位置する、５つの山が聖山とされる。

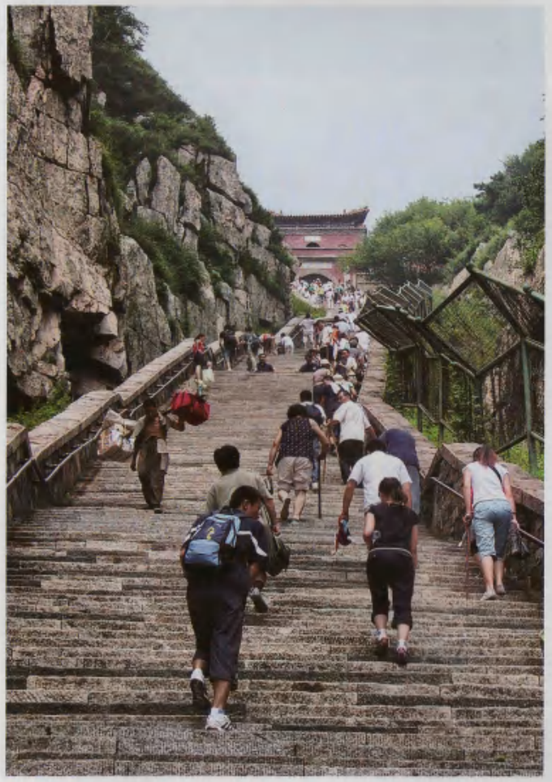
・東岳泰山（山東省泰安市泰山区）　・南岳衡山（湖南省衡陽市衡山県）

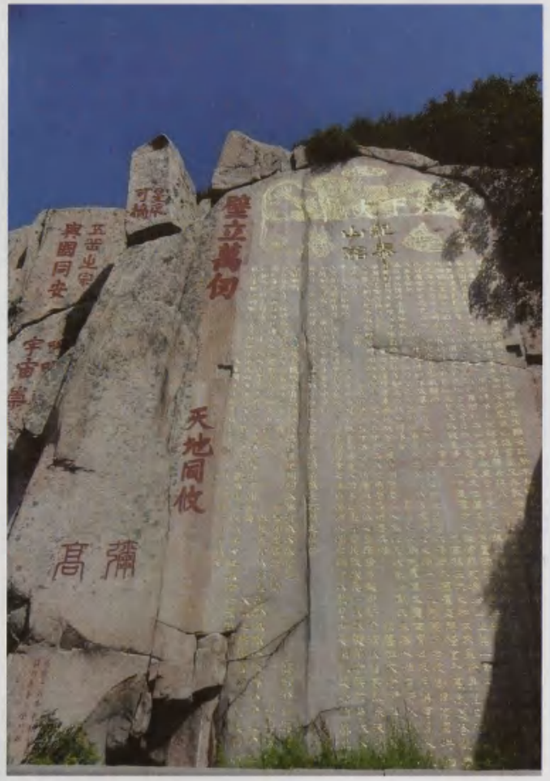
・中岳嵩山（河南省郟州市登封市）　・西岳華山（陝西省渭南市華陰市）

・北岳恒山（山西省大同市渾源県）

神話によると万物の元となった盤古という神が死んだとき、その五体が五岳になったと言われている。

五岳は中国で一番高い山ではないが、平原あるいは盆地の上にそびえ立つため、古人の目にはとりわけ高くて険しく見える。さらに歴代帝王や多くの有名人らが祭祀、修行など訪れ、遺跡を残して、五岳の名声を高めた。

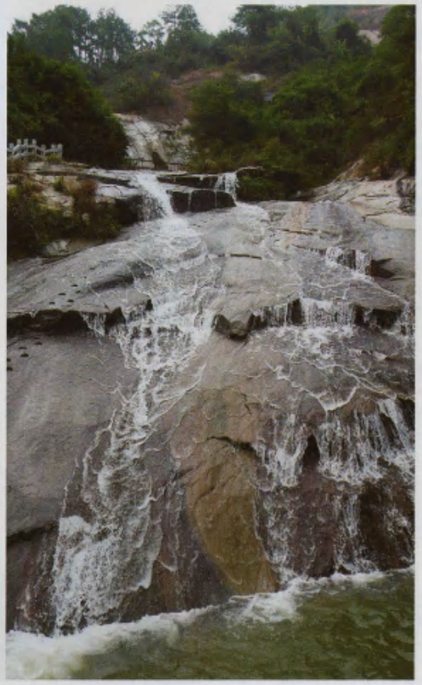




衡 山（コウザン）

衡山は五岳の一つ、南岳です。

湖南省の中東部、衡山県の西15kmに位置する。その南・東・北の3面を湘江がめぐって流れる。古名を「寿岳」といい、神農氏がここで薬となる植物を採ったとの伝説がある。隋の文帝（在位581−604）以後、岣嶁山（こうろうざん）とも呼ばれる。周囲約400kmで、花崗岩より成る断層山脈で、山容は雄大である。72峰存在し、最高峰の祝融峰は標高1298m。天柱、芙蓉、紫蓋、石廩（せきりん）の5峰が有名である。山中に南台寺、祝聖寺などの大寺院があり礼拝者が絶えず、天台・禅の名僧が駐錫したという。

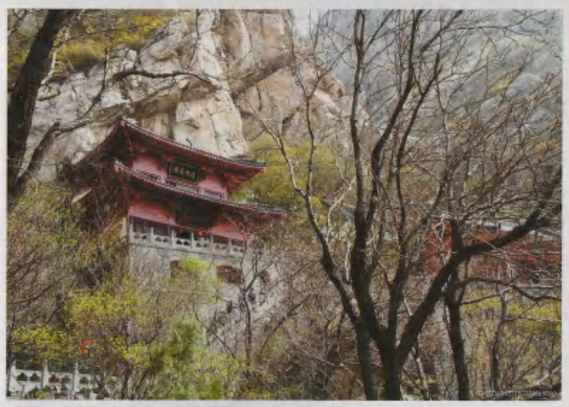


嵩山
（スウザン）

嵩山は五岳の一つ、中岳であり、河南省登封市に位置する山岳群である。最高峰の連天峰は標高1512m。

古代から山岳信仰の場として有名で、北魏時代からは少林寺などの道教、仏教の道場が建立された。また、唐代には副都であった洛陽に近いことから、政府との結びつきが強く、ここを本拠地としていた潘師正、普寂、慧安などの道士、僧侶らが皇帝の崇敬を受け、道教、禅宗はそれぞれ自派を拡大した。禅宗の祖庭である嵩山少林寺は、修練されている少林拳及びそれを中国武術の源流としている中国武術門派の総本山である。

2010年7月から8月にブラジルで開かれた世界遺産委員会にて、嵩山山麓の登封周辺地域にある少林寺、嵩岳寺塔他の歴史遺跡8ヶ所11点が「天地の中央」にある登封の史跡群として新たに世界遺産に登録されている。



華 山
（カザン）

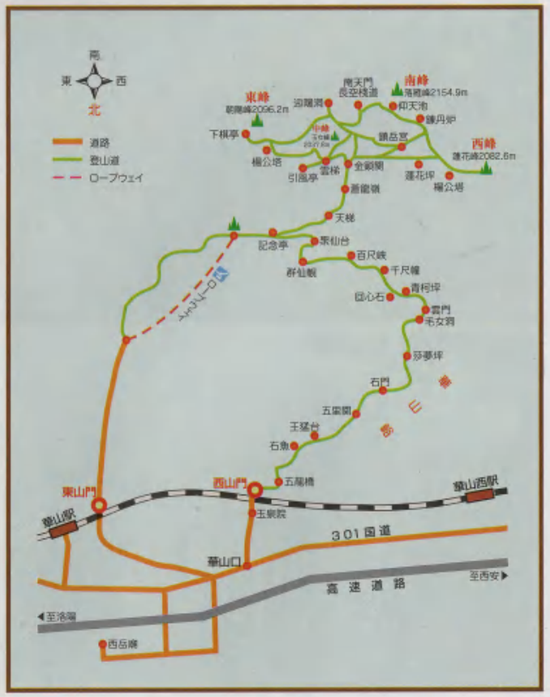
華山は五岳の一つ、西岳である。

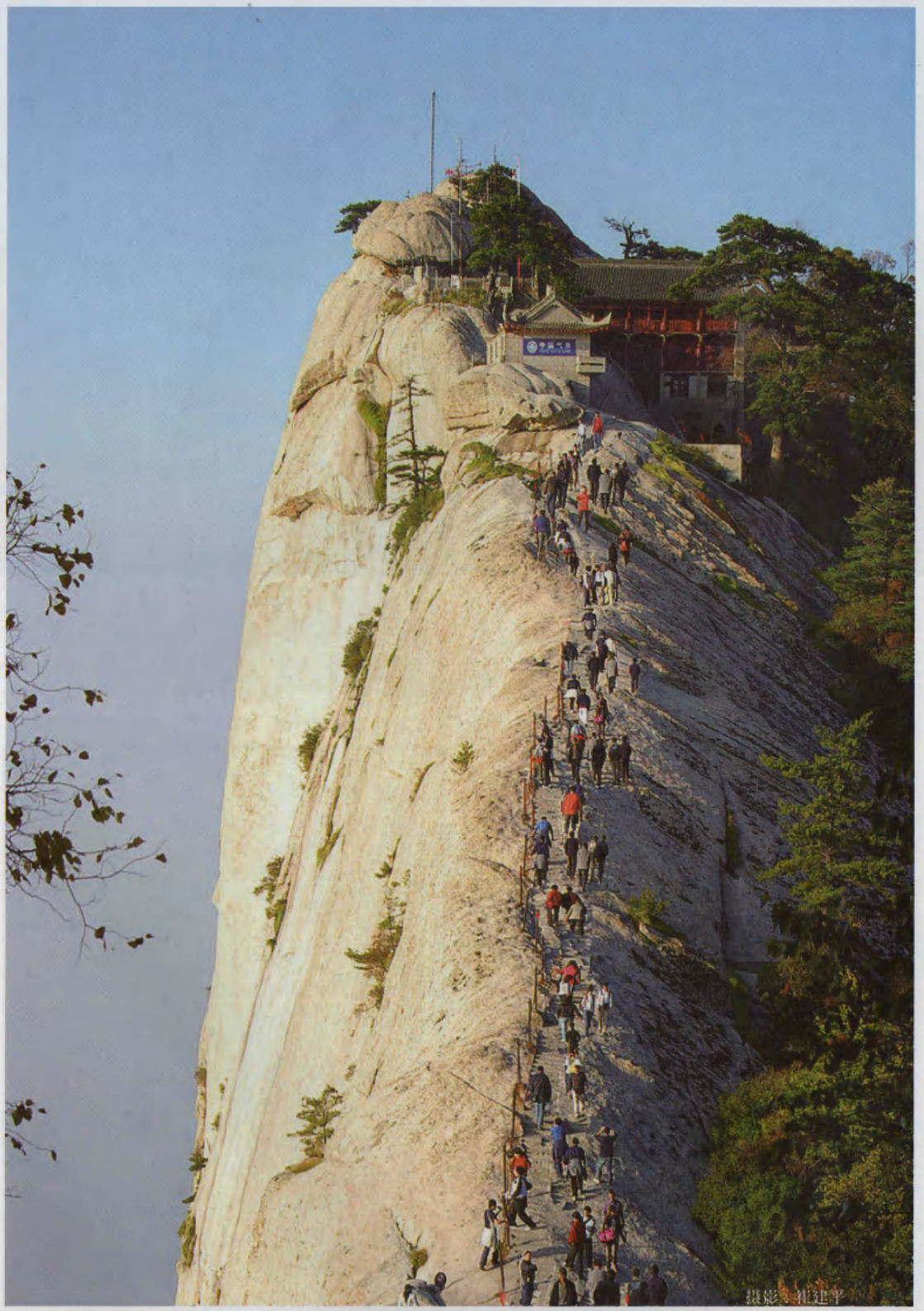
陝西省西安の東約120kmの地に位置する。ロープウェイから雲台峰まで断崖、絶壁が続く。主峰の落雁峰（南峰）は標高2160m、蓮花峰（西峰）は標高2080m、東峰（朝陽峰）は標高2100m。北は黄河を俯瞰し、南は秦嶺に連なる。『水経注』に、「遠くからこれを望めば花の状に似たり」とある。

「華山　古自より　一条の道」と言う。南北に通じる一路しかない。その距離は約10kmである。登山路は幾度も改修工事がなされて、鉄索を強化するなど遭難予防用の設備が整備されていった。

華山の中腹にある蒼龍嶺は、足がおぼつかなくなるような険しい斜面であり、東西が1500m、南北わずか1mにすぎず、両側は深い谷になっている。青松や白雲を遠望すると目がくらむほどである。

唐代の文学者韓愈（韓退之・768−824）は登山した後、振り返り、色を失い生還は絶望と思い込み、遺書を書き投げ下ろした。同行の人が無理やり酒を飲まして酔い潰し、担ぎ下ろしたと伝えられ、嶺の尽きるところに『韓愈投書処』の五字を彫った逸神巌がある。





恒 山 （コウザン）

恒山は五岳の一つ、北岳である。

恒山山脈は山西省北部と河北省北部にまたがり、東西に延々250km続き、秀麗な108の峰がある。主峰は山西省渾源県に位置し、最高標高は2016m、非常に雄大で「塞北第一の名山」と称される。天峰嶺と翠屏峰は、恒山の東西の主峰である。互いに向き合い、断崖と緑帯、峰の間の渓谷は静寂で、絶壁が両側に立ち、石が青空に挟まれているかのようで、最も狭いところでわずか10m。ここは昔も今も天険であり、交通の難所でもある。

恒山は道教文化の影響を非常に大きく受けている。恒山の古い伝説によると、太上老君は千仏嶺で不老長寿の丹薬を作ったと言われる。前漢の皇帝、宣帝年間、三茅真君（すなわち茅盈、茅固、茅衷の兄弟三人）は神仙の術を修練し千年も聞かない三茅窟を残す。北魏時代、太武帝に天師として崇められた冠謙之は道教の新法を宣揚し、その弟子の李皎は嵩岳から恒山に身を寄せて修練を積み、線香を上げ、一時極めて栄える。唐代、八仙の一人である張果老はここで修練し、恒山道教の道場の名を天下に広める。宋朝の皇帝は恒山から南へおよそ150km離れた曲陽県に北岳を祀る廟を別に建設した。清代初めまでに主峰の周辺だけでも60数カ所に各種の寺院や廟が建てられた。「三寺四祠七亭閣」とか「七宮八洞五廟」と言われ、非常に壮観で大規模な古代建築群が形成された。

現代、恒山にある最も有名な寺院は道教寺院ではなく、仏教寺院の懸空寺である。懸空寺は恒山のふもとに近い絶壁に築かれた木造寺院である。創建は491年であるが、明時代（1368年−1644年）および 清時代（1644年−1911年）に大規模な修復が行われている。また、1900年には解体修理も実施された。40の木造堂宇が数々の柱や梁、廊などで巧みに繋がれている。

廬 山（ロザン）

（1996年に世界自然遺産に登録されている）

廬山（ロザン）は江西省の九江市内に位置する。長江の中下流平原、ハ陽湖岸にそびえる廬山は標高1474m、山の面積は280㎢である。ここは江西、湖北、安徽の三省が境を接している。

廬山の地質構造はとても古く、そして複雑である。地殻変動によって断層になり、歴史の経過がくっきり記録されている。山々は、雲に覆われ、非常に綺麗である。廬山を表現するには、中国語で「雄」「奇」「険」「秀」の四文字がふさわしいと言われている。廬山も中国山水詩の揺籃である。その独特な姿によって、昔から、歴代の詩人、文人墨客を魅了し、陶淵明、李白、白居易、蘇軾などの有名な詩人がこの地に多くの傑作を残している。

その中に、李白の「望廬山瀑布」宋の詩人・蘇軾の「題西林壁」などの名詩は、ここ数年、中国の中学校の国語教材として必修項目になっている。

中国丹霞山（チュウゴクタンカサン）

（2010年に世界遺産に登録されている）

広東省丹霞山は広東省韶関市の仁化県と曲江県が接する地区に位置する、面積は290㎢。主峰である巴寨の海抜は618m。丹霞盆地の南西の果てには著名なネアンデルタール人の頭骨の化石の遺跡が発見され、早期のホモサピエンスを研究するうえで重要な糸口となっている。獅子岩にある石峡文化遺跡は6000年前の新石器時代後期の古人類文化遺物である。

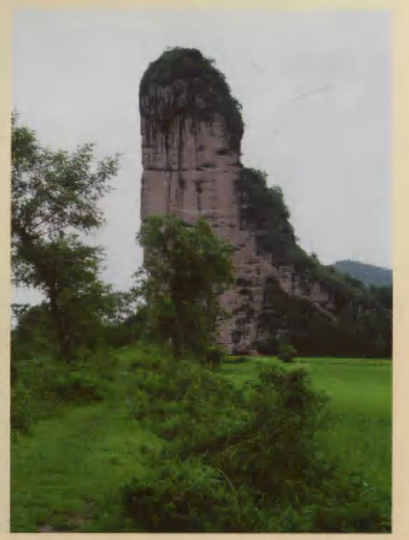
丹霞地形の中で最大規模を誇る福建省泰寧の丹霞地形。高さ100mを超す垂直に切り立った絶壁、無数の穴を持つ不思議な岩肌の巨岩、動物の形に似たユニークな奇岩の数々、平地が少なく切り立った泰寧丹霞の岩山は、「中国丹霞」の中で典型的な特徴を持っている。

浙江省江郎山は江山城の南 25km の江郎郷に位置し、岩、穴、雲、滝が一つの山に集まって、壮観である。山頂に切り立った三つの大きな石があり、高さが369.1m、その外見は石筍に似て、北から南へ「川」という文字のように見える。「郎峰」、「亜峰」、「霊峰」の順番で、「三爿石」と言われる。山々は広々としていて、雲霧がいつも立ち込めているため、空と山は一体となり、景色が素晴しい。

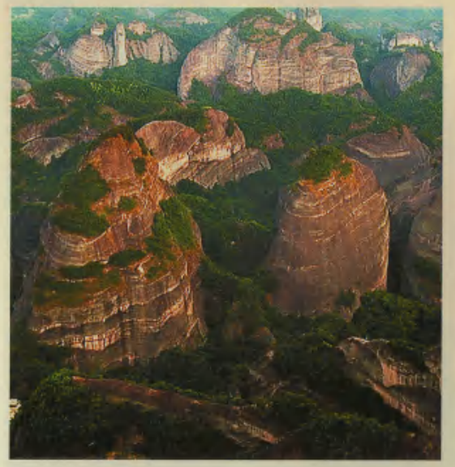
中国丹霞山（チュウゴクタンカサン）

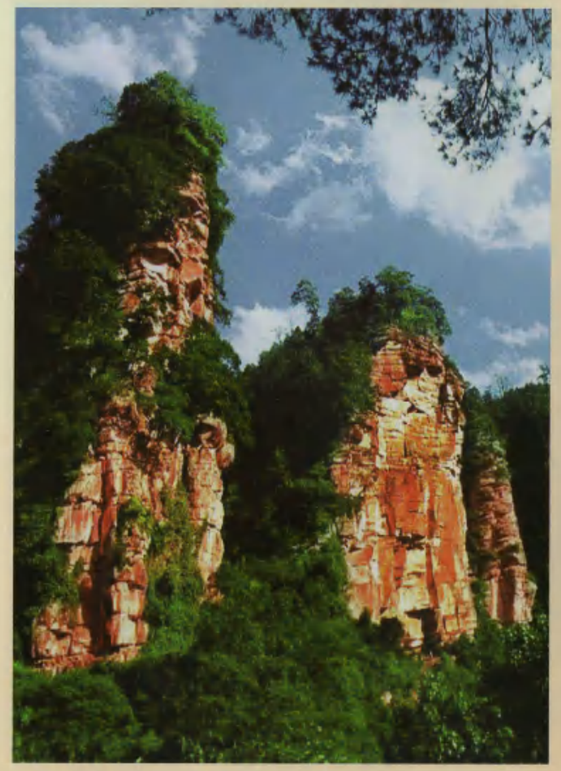
（2010年に世界遺産に登録されている）

江西省龍虎山は江西省鷹潭市の南16kmに位置し、総面積は380k㎡、龍虎山は丹霞地形の標本のような奇峰が連なっている。また、龍虎山の仙水岩の断崖絶壁には無数の懸墓遺跡があり、棺の数は100を超え、すべて象眼細工がほどこされて絶壁に納められており、懸棺群全体をみると、まるで巨大な絵巻物のようにみえ非常に神秘的である。



湖南省崑山は湖南省西南部の新寧県内にあり、総面積は約108k㎡である。莫山の丹霞地形は多種多様で、高さ、険しさ、深さ、長さ、狭さなどの特徴が揃っている。特にたくさん螺の形をした峰は、まるでクジラが群れているように見え、非常に壮観である。また、銀杉、珙桐、華南虎、ウンピョウ(雲豹)、ジャコウネコ（霊猫）など絶滅危機に瀕している動植物が生息している。



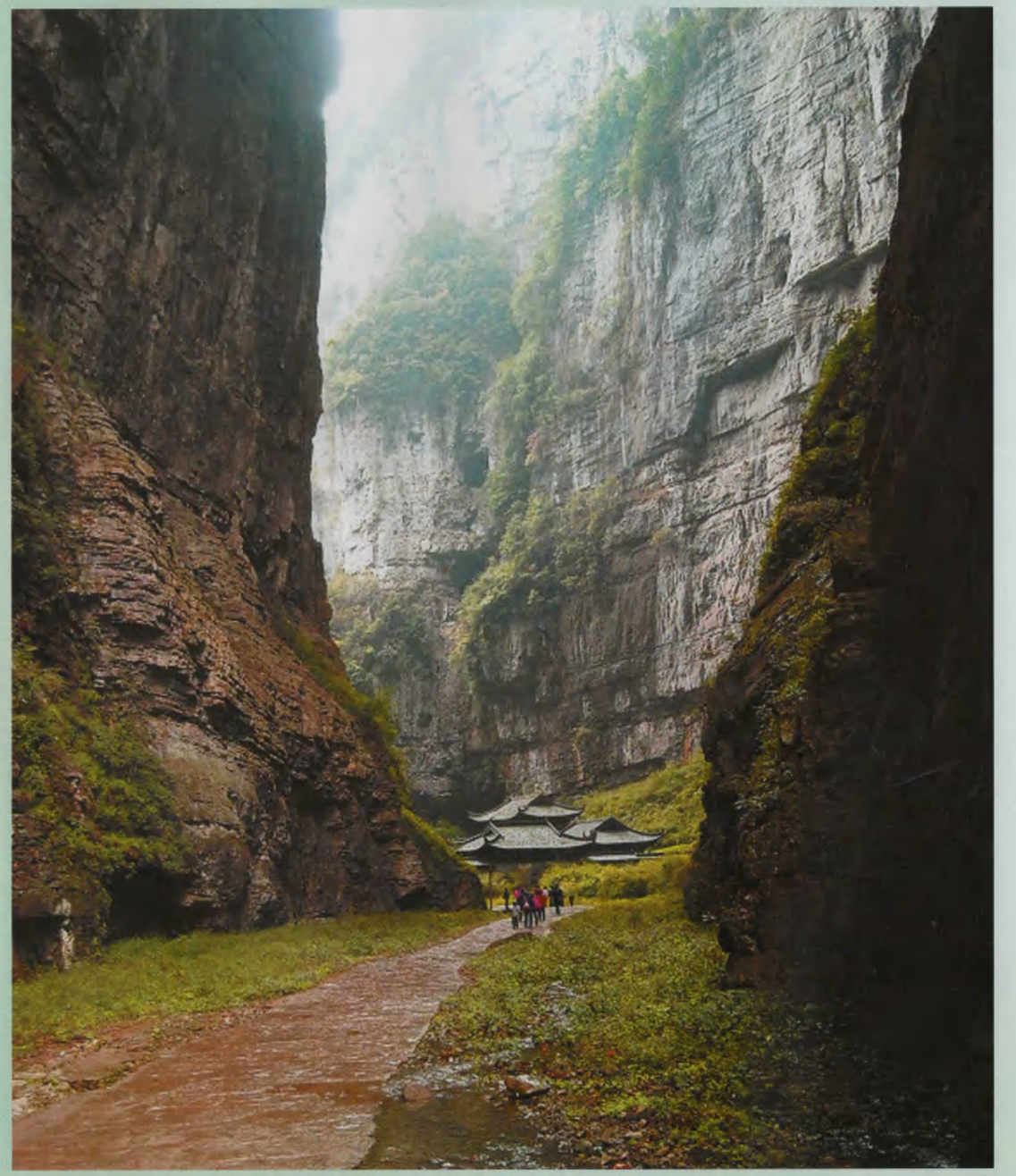


貴州省赤水は貴州省貴陽市から450km、四川省成都市から340km、重慶市からは270km に位置する。赤水地区は十丈洞、四洞溝、丙安をはじめ、7つに地区分されている。豊富な水資源と変化に富んだ地形が滝群を形成し、高さ3m 以上のものが実に数千ヶ所もあり、広い面積に古い植生と 2359 種の動植物や大切な絶滅危惧動物を有していることが赤水丹霞の最も独特な特徴となっている。貴州省赤水は「緑の丹霞」とも呼ばれている。

中国南方カルスト（チュウゴクナンポウカルスト）

（2007年に世界遺産に登録されている）

「中国の南方カルスト」は一つの大きな地区であり、独特で多様なカルスト地形を持っている。中に雲南省の石林などを代表とする高原地区の石林や、貴州省の荔波を代表とする高原と低地から移行された地帯の峰叢カルスト、重慶市の武隆を代表とする長江北部の深い渓谷のカルストがある。

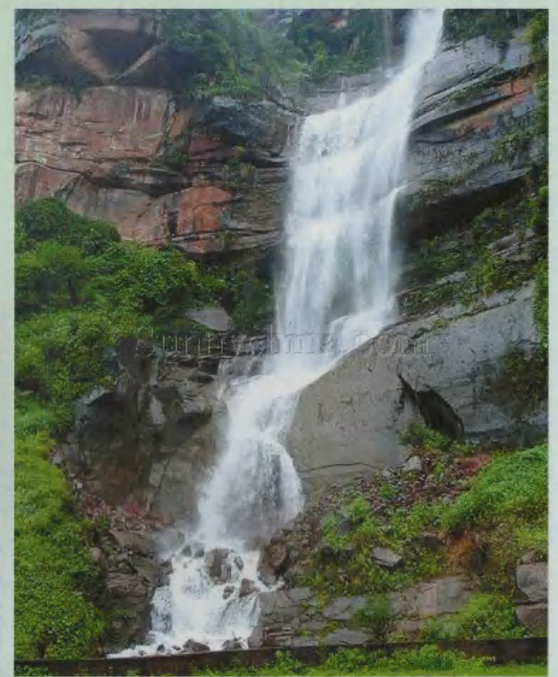


雲南石林イ族自治県の境界内に位置するカルストは「雄、奇、険、秀、幽、奥、曠」で有名である。世界で最も珍しいカルスト地形の景観を持っており、「造型地形の天然博物館」と称される。生き生きとした石林、形態は珍しく、あるものは剣のように青空を指し、あるものはキノコのようで、あるものは天を衝く高塔のようである。あるものはくぼ地の間で隠れ、盆地の中に広く分布し、あるものは山の斜面や広々とした野原にそびえ立っている。

中国南方カルスト（チュウゴクナンポウカルスト）

（2007年に世界遺産に登録されている）

貴州省東南部に位置する荔波県のカルスト地形は、面積が県の20%を占めており、世界最大面積のカルスト原始林である。境界内の最も人目を引く景観は円錐状峰であり、最も典型的なカルストのタイプは峰叢カルストと峰林カルストである。ここで生活している人々の90%が少数民族で、水族の水書、ブイ族の古法製紙などは今も伝承され、人々を驚嘆させ、珍しい自然の景観に多くの民俗風情を添えている。



南方カルストの重慶武隆は3つの独立するカルスト系統が育成され、「天下第一の洞窟」と称された芙蓉洞、アジア最大の天生橋群、全世界でも稀有なカルストタイプの後坪天坑などがある。

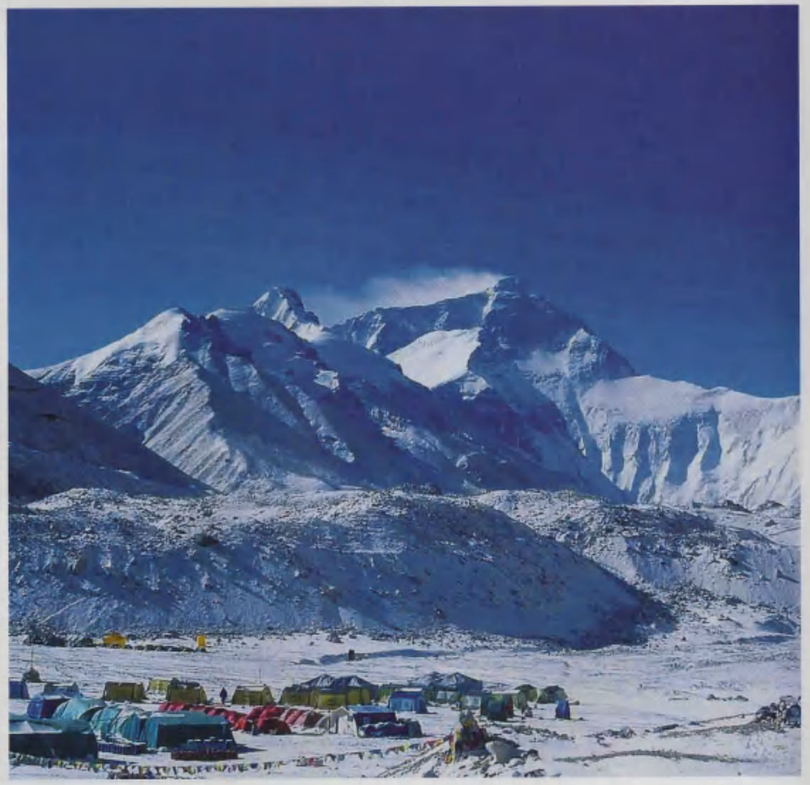
珠穆朗瑪峰（チョモランマ）

チョモランマはヒマラヤ山脈の主峰であり、世界最高峰を誇る。珠穆朗瑪峰の中国語では、チベット語 (Qomolangma) を転写した珠穆朗瑪峰（チョモランマ）と呼ばれている。チョモ（珠穆）は女神の意味、ランマ(朗瑪)は3番目の意を表している。というのも、チョモランマ峰とその周辺の 4 つの高い峰を五大神峰と呼び、チョモランマは五大神峰の中の番目だからある。チョモランマは中国とネパールの国境に位置し、標高8844.43m、地球上で最も標高の高い独立峰である。ネパールでの名称はサガルマータまたはサガルマタで、「世界の頂上」という意味である。

チョモランマは巨大なピラミッド形を成し、雪線高度は北坂5800m～6200m 、南坂5500m～6100mで、頂上から麓まで548本の氷河が分布し、氷河の総面積は1457.07万km²、平均厚さは7260mである。チョモランマ周辺に海抜7000mを超える峰は40箇所余りあり、洛子峰 (8463m)、ノバカロ峰 (8463m)、ツォ・オユー峰 (7589m)、章子峰 (7543m)、努子峰 (7855m)、普莫里峰 (7145m) などがある。

チョモランマ地区は6月中旬～9月中旬にかけてはインド洋からの暖気団が北上し、雨が多く、雹が降るときもある。11月中旬～2月中旬は北からの寒気団で気温はマイナス60℃になる場合もあり、平均気温はマイナス40℃である。

毎年の3月初旬～5月末、9月初旬～10月末は季節の変わり目で晴天が比較的多い。チョモランマ峰が見られる季節もこの時期である。冬は積雪の為に通行止めとなっている。



四姑娘山（スーグーニャンサン）

四姑娘山（スーグーニャンサン）は四川省アバチベット族・羌（チャン）族自治州小金県日隆鎮に位置している。成都の北西220kmに連なる四つの峰：大姑娘（ダーグーニャン）山5025m、二姑（アルグ）山5276m、三姑娘（サングーニャン）山5355m、そして主峰、四姑娘山6250mをいう。

四姑娘山の観光区域は海子溝、長坪溝、双橋溝からなり、総面積は1375㎢である。ここはパンダの棲息地として有名な臥龍自然保護区の西側に隣接し、1996年、中国国家級自然保護区に指定され、2006年にはパンダが生息する臥龍自然保護区と合わせて、世界遺産に登録されている。

四姑娘山は東方のアルプスとうたわれ、美しい山峰の他に、多種多様な植物の観察もできる。山麓一帯（3000m～4500m）は湖沼、湿地、草原、森林があり、6月～8月にかけて、ブルーポピーを初めとする高山植物が驚くほど数多く咲き乱れる。5月からシャクナゲ、桜草など、6月から8月までは青いケシ、赤いケシ、黄色いケシ、白いケシを始め、エーデルワイス、草ジンチョウゲ、アツモリソウ、キランソウ、キンポウゲなどの花が山一面に咲くので、植物愛好家達の楽園になる。

梅里雪山（バイリセツザン）

梅里雪山（バイリセツザン）、雪山太子とも言われ、雲南省デチェン蔵族自治州の徳欽県東北から約10kmの横断山脈中段、怒江と瀾滄江の間に位置し、三江併流（さんこうへいりゅう）と呼ばれるこの地域は2003年に世界遺産に登録されている。

平均海抜6000m以上の十三座の山が「太子十三峰」と呼ばれる。主峰のカゲボ峰の海抜は6740mで、雲南省の最高峰である。「雪山の神」とされたカゲボ峰は「チベット八大神山の第一」として、世界的にも有名である。

梅里雪山の麓にある雨崩村落は昔のままの姿を残す原始チベット族の村で、晴らしい雪山風景を楽しめると同時に、江南絶景を体験することもできる。青空の下、しなやかで真っ白い雪山と紺碧の湖、茂った樹海と果てしない草原、その感覚と色彩が人に強烈なインパクトを与える。その中を歩くとまるでこの世のものと思えぬ楽園のようである。実にシャングリラの縮図と言えるであろう。

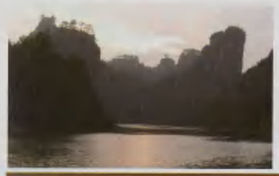
カゲボ峰の南側は、1000m前後の崖から流れ落ちる「雨崩神滝」が壮観である。カゲボ峰の麓にある取登貢寺（白転経寺）、袞瑪頂寺（飛来寺）が神山に拝謁する寺院である。その他、太子廟、蓮花寺などの遺跡がある。カゲボ峰の麓には、また「五樹同眼」と「石篆天書」という独特な見所がある。同じの根を持つ五樹は仏陀が植えたという言い伝えがあって、天書は仏陀が円寂の時に残された形が珍しい梵語のような書物である。

武夷山（ブイサン）

（1999年に世界遺産に登録されている）

福建省西北部に位置し、全世界の生物の多様性保護にとって重要な地区である。中国における最も典型的な丹霞の地形を備えており、総面積999.75km²、「碧水の丹山」、「東南の美しい奇界」と称され、中国最上級の観光地区である。

武夷山は36の峰からなる山で、その間を全長60kmの九曲渓（きゅうきょくけい）が山を縫うように走っている。山頂の天游峰に登ると、九曲渓を一望でき、そこからの眺めはまさに絶景である。また、九曲渓では、竹をつないだいかだに乗って、ゆっくりと武夷山の景色を楽しめる渓流下りもできる。



武陵源（ブリョウゲン）

（1992年に世界遺産に登録されている）

湖南省西北部に位置する。総面積は369km²、張家界市の張家界国家森林公園、慈利県の索溪峪自然保護区、桑植県の天子山の自然保護区と楊家界の景勝地を含む。「奇峰、奥深い谷、秀水、深い林、鍾乳洞」の五言絶句で世に名を知られ、国家5A級の観光地。

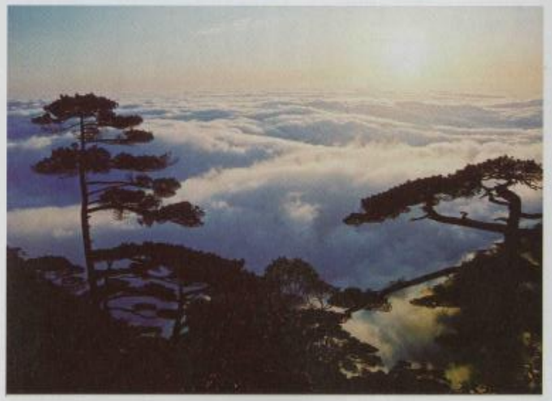
地殻変動によって生まれた3000本以上の石柱がそそり立つ張家界国家森林公園は、最も早く森林公園に指定された地域である。開発も3つの区域の中で一番進んでおり、標高1200mの黄石寨（こうせきさい）山頂へもロープウェイが整備されているので、気軽に観光を楽しむことができる。また、天子山自然保護区にある350mの高さで2つの峰をつなぐ天然の石橋「天下第一橋」のある袁家界（えんかかい）には、高さ326mの屋外エレベーターも設置されている。

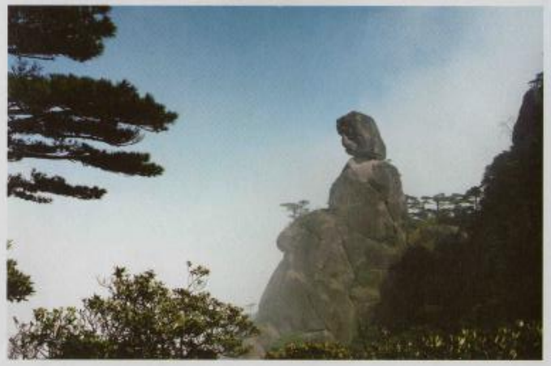
武陵源の鍾乳洞は数が多く、規模が大きく、有名な黄竜洞穴の底の総面積は10万km²、全長は7.5km、垂直の高度は140m、規模の大きさ、鍾乳石の数、形の珍しさは国内外の鍾乳洞の中でも特筆される。

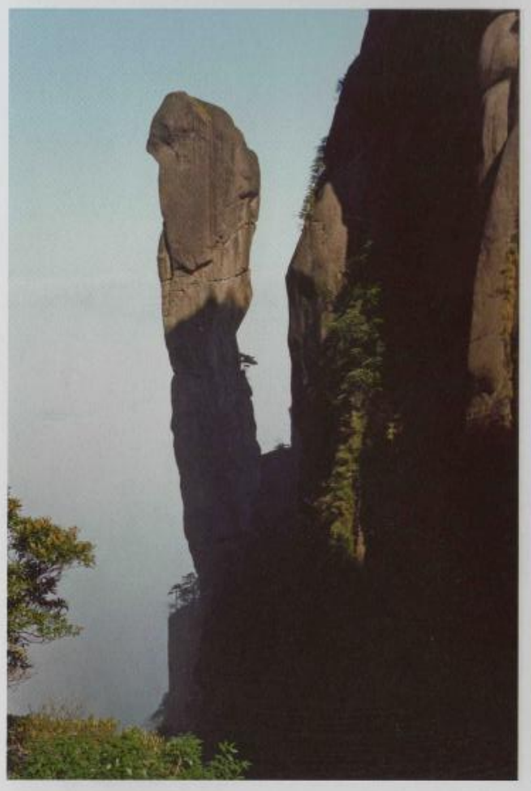
三清山
（サンセイザン）
（2008年に世界遺産に登録されている）

江西省上饒市玉山、徳興の二つ県に位置し、観光地区の総面積は約756km²、山に三つの峰（玉京、玉華、玉虚）があり、三清（道教の玉清、上清、太清）の名声を得た。そのうち、玉京峰は三清山の主峰であり、標高は1819m。三清山の中で最も高く、一番中心にあり、最大の観光地区である。玉京峰の日の出は三清山の一大奇観になっている。

三清山は南北に狭く長く、異なった成因の花崗岩は地形が密集して分布し、その形態が多様な峰を見せている。







五台山（ゴダイサン）

（2009年に世界遺産に登録されている）

五台山は世界五大仏教聖地の１つであり、中国の四大仏教の名山のトップの地位にある。山西省東北部に位置し、東、南、西、北、中の５つの山峰に囲まれ、峰頂が平坦で広く、あたかも土台のようなので、五台山と名づけられた。

悠久な歴史を持つ五台山には寺院が林立し、数多くの貴重な古代建築、彫塑、壁画などの文物が保存されている。早くも後漢の永平11年（68年）から構造が始まり、ここは国内唯一の青廟（漢族仏教）と黄廟（チベット仏教）が山に共存して経を講義し、法を説く法道場である。

峨眉山（ガビサン）

（1992年に楽山大仏と共に
「峨眉山と楽山大仏」として世界遺産に登録されている）

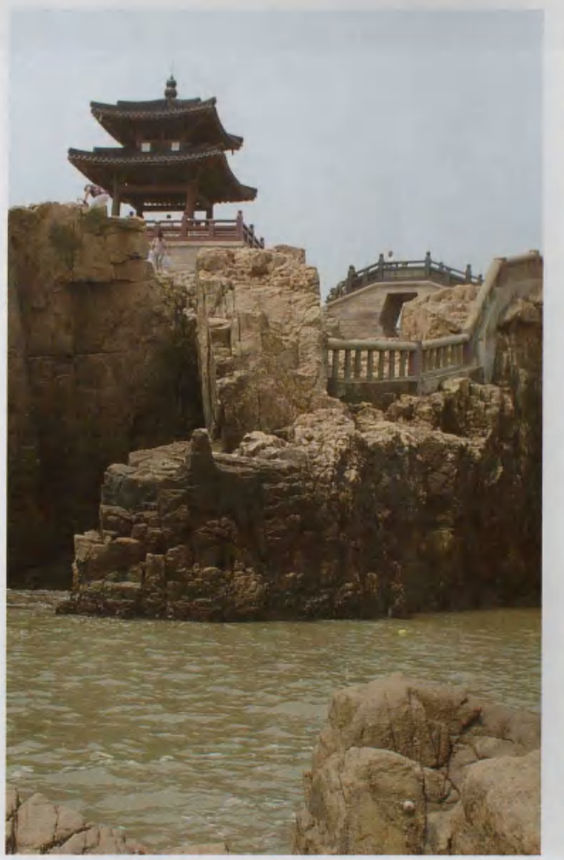
峨眉山は四川省成都市から南に約120kmに位置し、面積は154km²。「二つ山が向かい合っており、形は美しい峨眉のよう」の名声を得て、古来より「峨眉天下秀」といわれ、「植物の王国」、「地質博物館」とも称賛されている。山の上に5000種類以上の植物が生息し、その中で高等植物は3200種類以上で、ヨーロッパの植物の総計に相当する。峨眉山は標高3099mの山で、中国仏教四大名山の一つ。報国寺（ほうこくじ）、万年寺（ばんねんじ）など26の寺が立ち、中でも万年寺は東晋時代の古刹で、980年に鋳造された普賢菩薩像が安置されている。

観光で行く場合は標高3077mの金頂（きんちょう）が最も高い場所である。金頂では天候などの条件が揃えば、雲海に映った人の影の周りに光の輪ができる仏光と呼ばれる現象が見られることがある。なお、金頂へはバスやロープウェイを使えば日帰りで行くことも可能である。

普陀山（フダサン）

普陀山は浙江省舟山諸島に位置し、11.82㎢の小さなこの島は「海天佛国」と呼ばれる仏教の聖地である。島の中心よりやや北側に標高291.3mの「佛頂山（白華頂）」がそびえるが、その頂上に「慧済寺」がある。1982年に、全国で44箇所の第一級国家級重点風景名勝区のうちの一つに選ばれた。訪れる人のほとんどは観光客だが、仏教上重要な日には全国から仏教徒が集まってくる。

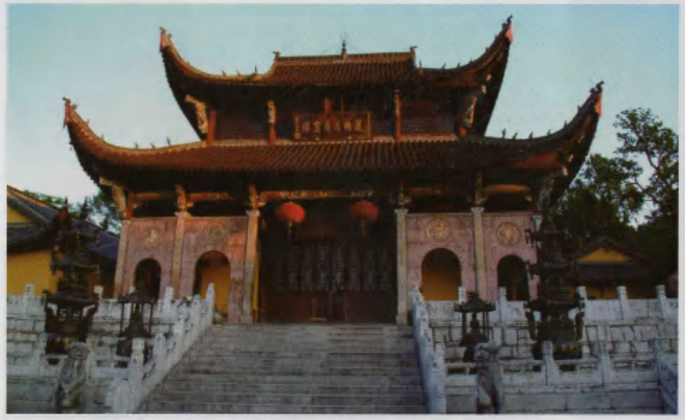
古来、日本との関係が深く、留学等で中国にやってくる僧侶の多くがここに立ち寄ったという。ある者はここを起点にさらに寧波へ、ある者は遥か奥地の長安まで上っていったわけだが、その長い旅の玄関口である普陀山に着いた時の感銘はなるものだったろうか。鑑真和尚が748年に日本に渡ったのもこの地からであった。



九華山（キュウカサン）

九華山は安徽省青陽県の西南に位置し、山前、九華街、閔園、天台、花台の五大景区で、環状の遊歩道は30数kmに渡り、総面積は約120数km²、十王峰の標高1344mである。

また、世界遺産に登録されている黄山からそう遠くない所にある。両山とも自然に恵まれ、その姿には近いものがあるが、九華山の方はもっぱら仏教聖地として知られており、参拝客の方が圧倒的に多い。九華山地蔵庵は、地蔵王菩薩を主祀とする、仏教系のお寺。国家級名勝の九華山は、かつて九子山と呼ばれ、詩人の李白が、この山を「蓮の花のよう」だと褒め、“霊山開九華”と詩に詠んだことから、九華山との名がついた。



武当山（ブトウザン）

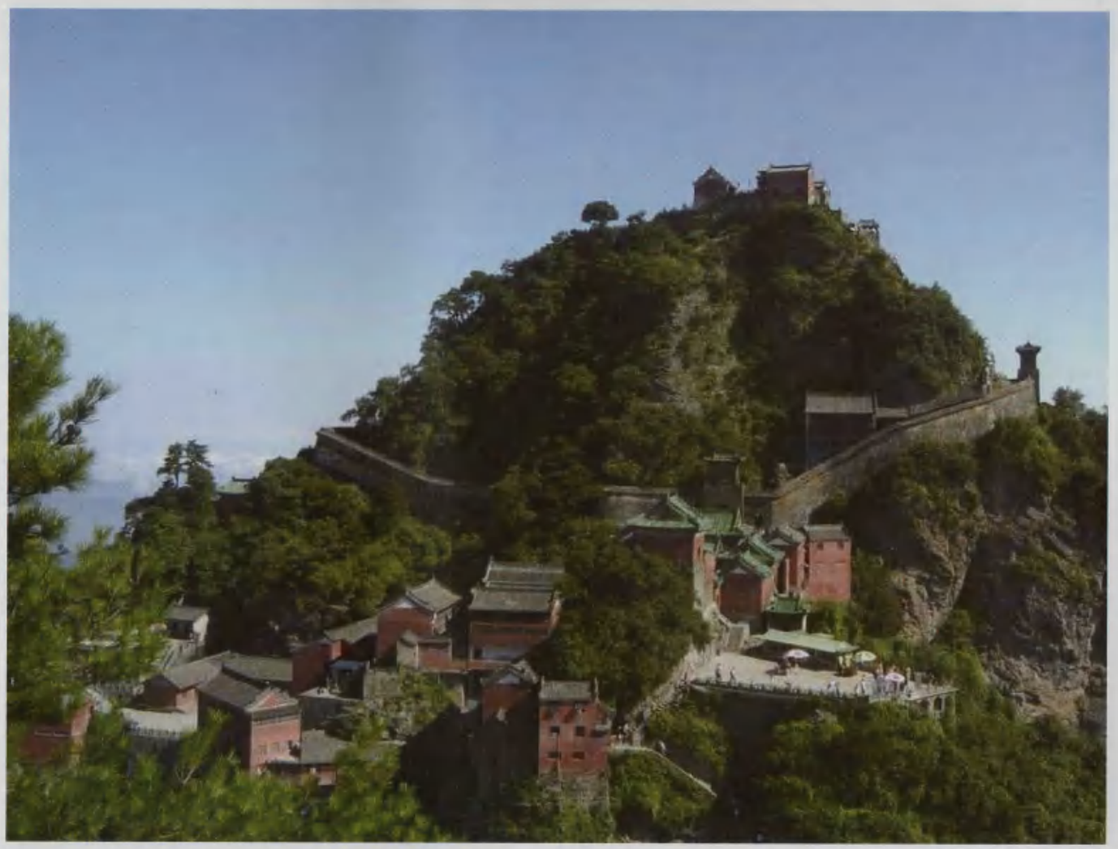
（1994年に「武当山の古代建築群」として世界遺産に登録されている）

湖北省北西部の十堰市に位置し、総面積312km²を占める。72の山、36の岩、24の谷、11の石窟、10の池、9の高台などからなる名勝は、道教の聖地として有名である。

武当山古建築は壮大で力強く、宮観（道教の社）を中心として、庵堂神祠が四方を取り囲んでいる。

古建築のほかにも、武当山には7400点以上の貴重な文物が残されている。特に、道教の文物が有名であるため、「道教の文物倉庫」と呼ばれている。

また、武当の道教からは、「内気拳」とも呼ばれる武術が生まれた。内気拳は長い歴史を有する中国武術の一大流派であるとともに、健康法としても優れている。



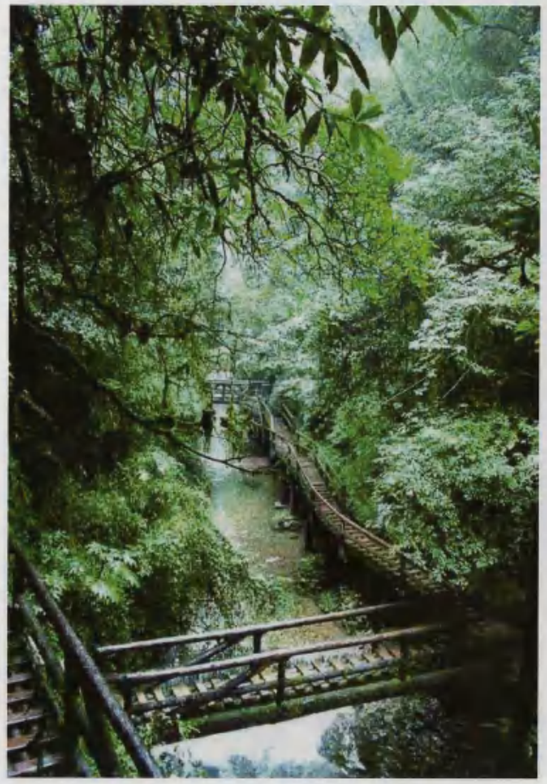
青城山（セイジョウザン）

（2000年に都江堰とともに世界遺産に登録されている）

青城山は四川省都江堰市の西南に位置し、背後には岷山雪嶺がそびえ立ち、正面には成都平原が広がっている。森林は四季を通して青々とし、緑の木々が山全体を覆っていて、環状に連なる峰々は城郭のように見えるため、青城山の名がついた。

ここは、「青城、天下に幽たり」と称されるように独特な景観を成している。

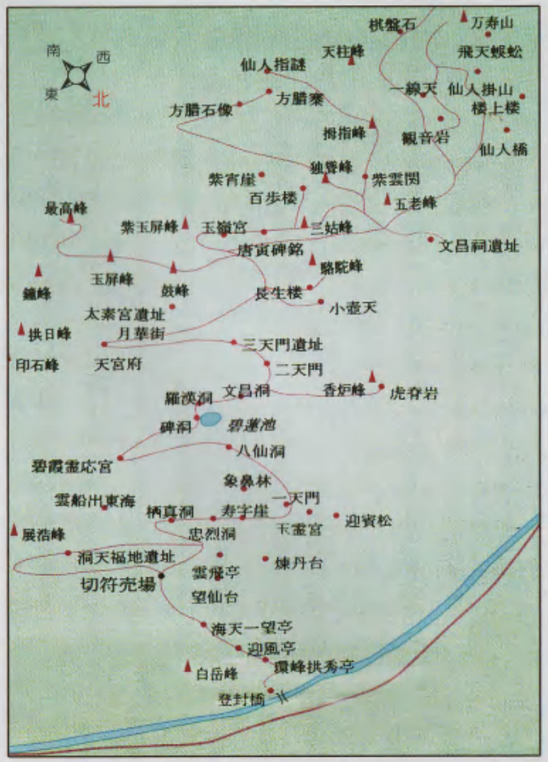
青城山の主峰の老霄頂は標高1600mある。景勝地内に36の峰、8の大洞、108の観光スポットがある。



斉雲山
(サイウンザン)

斉雲山は安徽省黄山市休寧県城の城西15kmの横江付近に位置し、月華街、楼上楼、雲岩湖の三大景区で、総面積110km²、白岳峰標高585m、屯渓市から片道1時間位である。

古くは「白岳」と呼ばれ、「一石天を挿し、雲端に直入、碧雲に斉し」(雲ほどに高い)の景観から、斉雲山の名がついた。斉雲山には歴史はるかな道教文化、独特の丹霞地形、数多くの素晴らしい摩崖石刻(天然の石壁に刻んだ文字や彫刻)などで広く知られている。斉雲山の道教は唐代に始まり、明から清にかけて最盛期を迎え、道教や信者の参拝の聖地となる。清の乾隆帝は「天下無双の景勝、江南第一名山」とたたえた。



中国国家観光局大阪駐在事務所
TEL:06-6635-3280　FAX:06-6635-3281
〒556-0017　大阪市浪速区湊町1-4-1　OCATビル4F
http://www.cnta-osaka.jp

ご覧いただきありがとうございます！